

Mitsubishi Corporation ART GATE Program

三菱商事アート・ゲート・プログラム 2021-2022 アーカイヴ

概要	01
3つのアーティスト支援	
スカラーシップ Scholarship [学生支援]	02
ブレイクスルー Breakthrough [躍進]	03
アクティベーション Activation [活性化]	09
MCAGP EXCHANGE — 活動報告と交流会	13
三菱商事社内活動	14

概要

三菱商事株式会社は、社会貢献活動の一環として2008年より三菱商事アート・ゲート・プログラム（以下、MCAGP）に取り組んできました。MCAGPは、2021年にプログラムアドバイザーとしてNPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]を迎え、アーティストの3つの異なるキャリアステージに合わせ、資金援助だけでなく学びの機会やメンタリングを取り入れるなど、積極的にアーティストの成長や創作活動の発展をサポートするプログラムへと刷新しました。また、アーティストが制作のプロセスを通して得た知見や軌跡を多くの観客と共有することで、アートを介した多様な学びを創出し、共に考える場が生まれることを目指しています。MCAGP2021-2022の実施期間中、新型コロナウイルスの感染拡大によって、生活様式を含め社会の変化とともに、アーティストの創作テーマや制作スタイルも多様化しました。

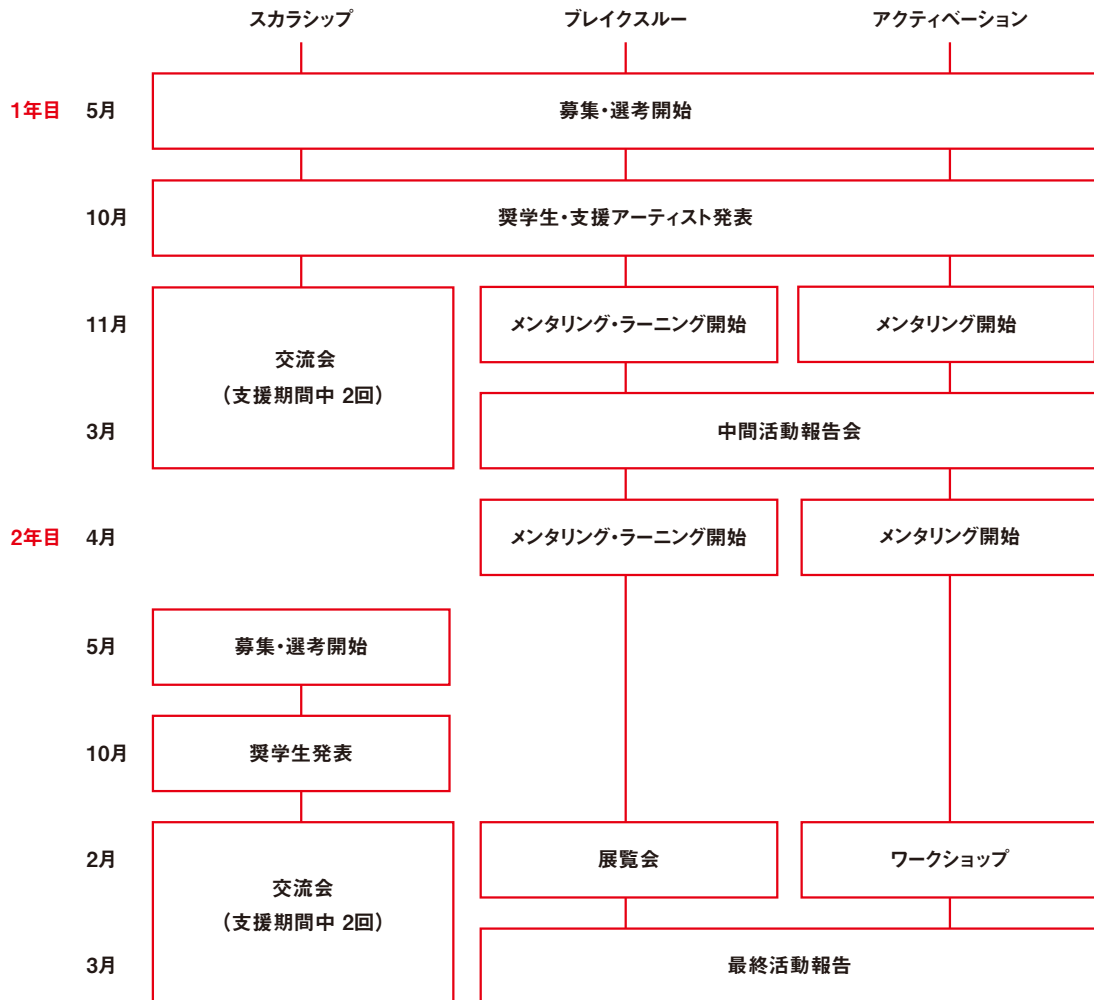
ここでは、2年に亘って実施されたMCAGP2021-2022についてご紹介します。

主催：三菱商事株式会社

プログラムアドバイザー：NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

*敬称略、組織名・肩書きは当時のもの

MCAGP2021-2022 全体スケジュール



スカラシップ Scholarship [学生支援]

大学や専門学校の芸術文化分野に在学中で、未来にアーティストとして自立した活動を希望しながらも、経済的な理由で困難を強いられている学生を支援(単年度)

支援内容

- 1 奨学金50万円(2回に分けて支給/給付型奨学金[返済不要])
- 2 アート有識者を招いた奨学生交流
- 3 ブレイクスルー・アクティベーション支援アーティストとの交流会

支援期間と人数

2021年度(2021年9月~2022年3月): 20名を選出

愛知県立芸術大学
大阪芸術大学
沖縄県立芸術大学
尾道市立大学
金沢美術工芸大学
九州産業大学
京都市立芸術大学
京都芸術大学
多摩美術大学
東京学芸大学
東京藝術大学
東北芸術工科大学
武蔵野美術大学

2022年度(2022年9月~2023年3月): 20名を選出

愛知県立芸術大学
尾道市立大学
金沢美術工芸大学
九州産業大学
京都芸術大学
多摩美術大学
東京学芸大学
東京藝術大学
東京工芸大学
東北芸術工科大学
名古屋芸術大学
日本大学
広島市立大学

選考

MCAGP運営事務局による書類選考とオンラインによるインタビュー選考を経て20名を選出しました。

奨学生からの声

2021年度

東京藝術大学在学 2022年 国内外の映像国際展に出展
奨学金をいただいたことによって、今年は作品を制作するだけでなく、それに伴う研究や国内外の発表にも広く深く活動することが叶いました。

2021年度

沖縄県立芸術大学在学
支援を受けて、修了制作に向けた試作を重ねることができ、結果として卒業・修了作品展において五賞の一つである北中城村長賞を受賞することができました。今後は、公募展などに挑戦し作品の露出を増やしたいです。

2021年度

京都芸術大学在学
支援いただいたおかげで、大型作品を制作でき、また制作アイデアの規模も大きく想像できるようになりました。

2022年度

九州産業大学在学
絵を描く環境に身を置くことだけにとらわれず、興味のあることは全てリサーチとらえ挑戦していきたいです。

2022年度

多摩美術大学在学
他の奨学生との交流で学ぶことが多かったです。特に普段はなかなか話すことのできない都内在住以外の方と話せて、地方との美術活動の違いを学びました。

ブレイクスルー Breakthrough [躍進]

客観的な視点で作品批評を必要とする若手アーティストにその機会を提供。メンターの3名によるメンタリングと学びの機会、展覧会を通して、作品やコンセプトづくりの次なる展開を支援

支援内容

- 1 支援金150万円(1名(組)につき/2回に分けて支給)
- 2 ラーニング(レクチャーやディスカッション、メンターからのアドバイス等)
- 3 展覧会(2年間の成果発表の場を提供)

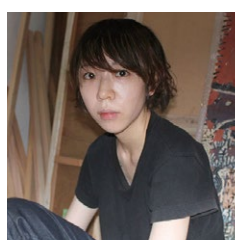
支援期間と人数

2021年9月～2023年3月

支援アーティスト



飯島暉子
撮影: 間庭裕基



泉 桐子



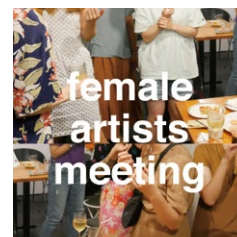
岡本 秀
撮影: 熊野陽平[MIMIC]



小山 渉
撮影: Ai Ozaki



衣 真一郎
撮影: Hiroshi Takizawa



female artists meeting
(うらあやか・都賀めぐみ)

メンター(選考委員)



長谷川 新
インディペンデントキュレーター
撮影: 黒田葉月



榎田倫広
東京国立近代美術館 主任研究員



水田紗弥子
キュレーター/Little Barrel

ファシリテーター

堀内奈穂子
NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト] キュレーター

選考

書類選考の後、メンターからの要望により急速作品実見を行いました。その後作品・自己紹介映像による最終選考を経て6組を選出しました。

ラーニング

支援アーティストのプレゼンテーションやディスカッションに加え、国内外の美術館のキュレーターをゲストに招いたレクチャーによって、表現やコンセプトを掘り下げる学びの場を全9回(キックオフ含む)創出しました。

2021年度

1. 支援アーティストによるプレゼンテーション
日時：2021年10月12日(火) 19:00-21:00 オンライン

2. レクチャー1
「ピーター・ドイグを通して考える、絵画の諸条件について」
日時：2022年1月17日(月) 19:00-21:00 オンライン
講師：梶田倫広



3. レクチャー2
「課題としての中国 - 現在と過去の状況に向き合うこと」
日時：2022年2月7日(月) 19:00-21:00 オンライン
講師：キャロル・インハ・ルー 北京中間美術館ディレクター
ヨコハマトリエンナーレ2023 アーティスティック・ディレクター



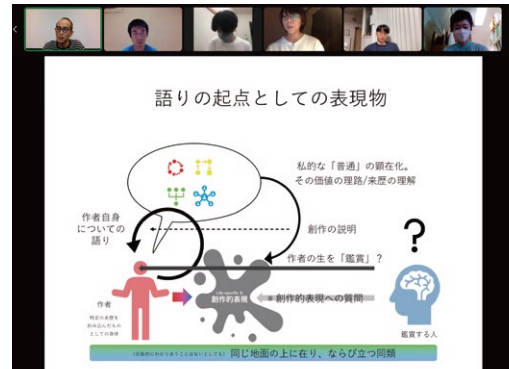
4. ディスカッション：振り返りと展覧会に向けて
日時：2022年2月28日(月) 19:00-21:00 オンライン

2022年度

1. 展覧会に向けたディスカッション
日時：2022年5月21日(土) 13:00-15:00 代官山AITルーム

2. レクチャー1
「Luxurious Risk :
集団的実践、芸術の有用性、いかに失敗を許容できるか」
日時：2022年6月13日(月) 19:00-21:00 代官山AITルーム
講師：レオナルド・バルトロメウス
山口情報芸術センター(YCAM)キュレーター／「ルアンルパ」メンバー

3. レクチャー2
「ライフ・スペシフィックな創作的表現を伝える」
日時：2022年7月25日(月) 19:00-21:00 オンライン
講師：津口在五 瀬の津ミュージアム キュレーター



4. ディスカッション：作品プランとコンセプト発表
日時：2022年9月26日(月) 19:00-21:00
代官山AITルーム、オンライン

ラーニング ゲスト講師からの声

キャロル・インハ・ルー
北京中間美術館 ディレクター／ヨコハマトリエンナーレ2023 アーティスティック・ディレクター



中国においては、多くの場合、アーティスト支援が国家とアートマーケットによって一元化されている中で、MCAGPは、アーティストや美術批評家、キュレーター、歴史家の交流や実験的な芸術活動を支援する上で非常に貴重なプラットフォームであるといえます。レクチャーでは、中国における私自身のキュレーターとしての実践について紹介しましたが、その内容についてアーティストたちから活発なフィードバックや質問を受けたことは、私自身がその後もし

くつかの課題について考え続ける上で大きな励みとなりました。また、私が中国で経験したことや、そこから得た考察が、日本のアーティストにも共有されていることを実感でき、こうした感覚や考え方が私一人ではないのだと実感できました。こうしたプログラムを通してアーティストと美術評論家、キュレーターをつなぐことで、アーティストはきっと自分の作品の文脈をより深く理解し、(活動において)一人ではないと感じられることでしょう。

メンタリング

支援期間中、3名のメンターによるメンタリングを各アーティストにつき各年度1回、合計2回実施しました。1年目は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、主にオンラインで対話を重ねました。2年目以降はアーティストのスタジオや展覧会、メンターが関わる美術館に訪問するなど、さまざまな場所でアーティストがリサーチのテーマやコンセプトを共有し、メンターと議論する場が設けられました。



都内にて行ったメンタリングの様子(水田/左:泉 桐子/右:小山 渉)



衣 真一郎のアトリエを訪問(栞田) 古墳見学ではアーティストのリサーチについて議論を交わした

メンターからの声(抜粋)

栞田倫広
東京国立近代美術館 主任研究員

(アーティストたちが)バラエティに富んだ人選であったことが功を奏していた。参加者たちがそれぞれの作品について敬意を表し、良い点を指摘し合うなど、適切な関係が構築できた理由について、誰かが「それぞれが違うことをやっているのが良いのかもしれない」と言っていたことが印象的であった。立場が異なるからこそ見えるそれぞれの作品の特徴について、互いの制作を尊重しながら指摘しあうことができたのだと思う。関心の違いを乗り越えて、共通のテーマを見つけ、イベントを計画したりしたということも非常に素晴らしい点であった。2年間にわたり参加者たちがそれぞれ関係を構築するなかで、おそらく1人で制作することでは気づけなかったことを発見し、日々の制作に生かすことができたのではないかな。



female artists meetingとのオンラインメンタリングの様子

展覧会 「三菱商事アート・ゲート・プログラム 2021-2022 支援アーティスト6組による新作展」

アーティスト：飯島暉子／泉 桐子／岡本 秀／小山 渉／衣 真一郎／female artists meeting

会期：2023年2月15日(水)～26日(日) レセプション：2月14日(火) 入場無料

会場：代官山ヒルサイドフォーラム 東京都渋谷区猿楽町18-8 ヒルサイドテラスF棟



支援アーティストからの声
(抜粋)

衣 真一郎

想像していた以上に手厚いプログラムだと感じました。支援金も心強く、アーティスト活動をサポートいただけて行きたかった場所へのリサーチも行えた。MCAGP運営事務局の細かいお心遣いのおかげでプログラムも問題無く進み、全体を通してアーティストとしても成長できました。採択されたほかのメンバーやメンターの方々との交流もでき今後につながる貴重な機会となりました。絵画以外の方もいて表現方法も幅が広がって良かったです。

ブレイクスルー Breakthrough [躍進]

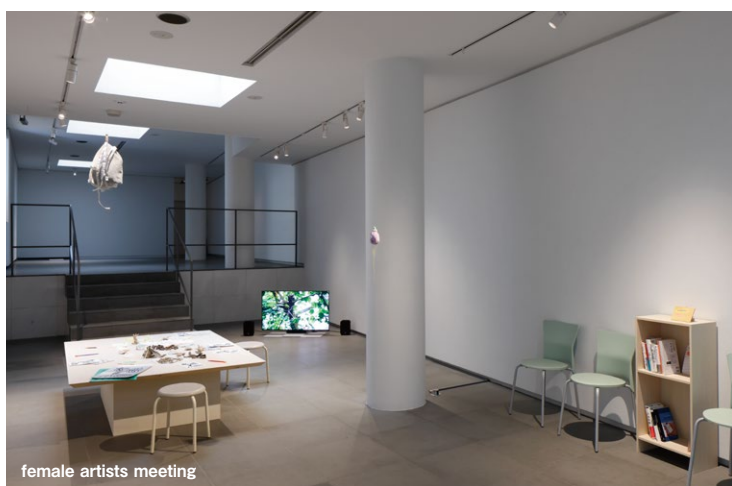
支援期間中のリサーチや実験の過程から生まれた新作の展示とアーティスト・トークを通して、「身体」や「精神」、「自然と人間の関係性」など、アーティストがそれぞれ捉える関心やテーマに対する思考と創作のプロセスを紹介しました。

展覧会映像：https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/csr/contribution/next-generation/mcagp/movie/MCAGP21-22_Breakthrough_Exhibition_movie.html

カタログ：https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/csr/contribution/next-generation/mcagp/pdf/MCAGP21-22_Breakthrough_ExhibitionCatalogue.pdf



飯島暉子



female artists meeting



岡本 秀

展示風景撮影：木奥恵三

展覧会関連プログラム

アーティスト・トーク

プログラム期間中に行ったリサーチや活動、また展覧会の新作を中心に、アーティストとメンターが対談を行いました。

会場：エキシビジョンルーム(代官山ヒルサイドフォーラム内)

2月18日(土)

13:00-14:30 泉 桐子 × 衣 真一郎 × 水田紗弥子

15:30-17:00 岡本 秀 × 小山 渉 × 榎田倫広

2月19日(日)

13:00-14:30 飯島暉子 × female artists meeting × 長谷川 新



アーティスト・トークの様子(泉 桐子 × 衣 真一郎 × 水田紗弥子) 撮影：森 孝介

特別トーク、イベント

支援期間中、リサーチに協力いただいた研究者を招き、トークや意見交換を行い、新作の構想につながった思考や視点を紹介しました。

会場：エキシビジョンルーム

「カタチ、文化、仮設：表現としての墓を読みとく」企画：飯島暉子

2月25日(土) 13:00-14:30

ゲスト：阿部 純 広島経済大学メディアビジネス学科准教授

スピーカー：飯島暉子／衣 真一郎／岡本 秀

「female artists meeting：生活を話し合う／ウィッシュリスト β版を活用する」企画：female artists meeting

2月25日(土) 15:30-19:30

ゲスト：坂本夏海・滝 朝子・長倉友紀子・本間メイ《子育てアーティストの声をさく》メンバー／吉澤弥生 共立女子大学文学部教授

スピーカー：female artists meeting



特別イベントの様子「female artists meeting：生活を話し合う／ウィッシュリスト β版を活用する」 撮影：森 孝介

アクティベーション Activation [活性化]

国内外の専門家や研究機関、技術者などの領域横断的な協働をはじめ、近年の社会状況に向き合うアーティストの多様な活動を柔軟に支援。その思考や表現を研鑽する機会を提供

支援内容

- 1 支援金400万円(2回に分けて支給)
- 2 メンタリング(リサーチや活動に関するアドバイス等)

支援期間

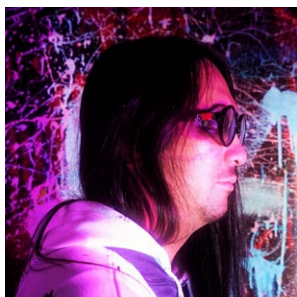
2021年9月～2023年3月

支援アーティスト



佐々木 類

撮影：Hanmi Meyer
画像提供：Bullseye Projects



檜皮一彦



持田敦子

撮影：Pezhman Zahed

メンター(選考委員)



蔵屋美香

横浜美術館 館長



グローバー

ミュージシャン



毛利嘉孝

東京藝術大学大学院
国際芸術創造研究科教授

ファシリテーター

塩見有子 NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト] ディレクター

選考

書類選考とオンラインによるインタビュー(最終選考)を経て3名を選出しました。

メンタリング

支援アーティストのさらなるステップアップのため、メンターは、支援アーティストのスタジオ訪問や展示視察を行い、アーティスト活動の背景と考え方を理解しながら議論を深めました。また、アーティストによるワークショップへの積極的な参加を通して、相互の継続的な関係性作りを構築しました。



佐々木 類：東京藝術大学でのメンタリングの様子(毛利)



自宅にて作品を手にとるメンター(蔵屋・グローバー)



檜皮一彦：MC FORESTでのメンタリングの様子(毛利)



万博記念公園内の太陽の塔を目指して「walkingpractice」を体験
撮影：Chie Tsubomoto



持田敦子：長野県飯田市でプロジェクトを訪問(蔵屋・毛利・グローバー)



プロジェクトの協働者も交えて交流(蔵屋・グローバー)

ワークショップ

支援アーティストの作品の背景やコンセプトについて理解を深めることを目的に、三菱商事社員向けに、アーティストによる参加型ワークショップを実施しました。ワークショップ前半は、アーティストのこれまでの活動を紹介したほか、支援によって実現できたことや今後の展開について話しました。後半では、アーティストの制作過程を体験したり、想像力を養う実験を行うなど、思考の起点や新たな発見、共感などさまざまな視点を学ぶほか、違和感や社会課題などについても議論を行い、共有しました。

檜皮一彦
「walkingpractice :
三菱商事ビルディング
編」

2023年3月9日(木)
18:30-20:00

三菱商事ビルディング
MC FOREST



三菱商事ビルの避難経路を、普段からアーティストが使用している車いすを参加者が担いで運ぶ「walking practice」を実施しました。社員同士で声を掛け合いながら行う協同は、一辺倒の避難訓練ではなくリアルな経験として身体的に学び、またビル内外の空間における「アクセシビリティ」についても考える試みとなりました。

佐々木 類
「光と痕跡」

2023年4月20日(木)
18:30-20:00

三菱商事ビルディング
MC FOREST

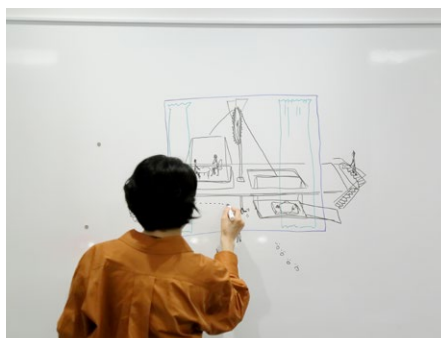


社員が持ち寄った「もの」を感光紙(サイアナタイプ)の上に置き、光を当て痕跡を残す実験を行いました。普段、当たり前にある光にフォーカスし、光の痕跡を可視化、記録することで、日常の中の新たな気づきをアーティストの視点を通して考察しました。

持田敦子
「つくるように壊し、
壊すようにつくること」

2023年6月15日(木)
18:30-20:00

三菱商事ビルディング
MC FOREST



アーティストが取り組んでいるテーマ「豊かな解体」について"つくること"と"解体"が渾然一体となる制作の背景と考えを紹介した後、MC FORESTの建物を素材として捉え、想像力を使って、空間を変容させるワークショップを行いました。

メンターからの声(抜粋)

毛利嘉孝

東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科教授

MCAGPで選ばれたアーティスト全員が、東京を拠点にしていなかったということは逆説的だが、コロナ禍におけるアーティストの活動のあり方を示唆したように思える。(中略)関連して、全員がミッドキャリアとしてそれぞれの問題を抱えているということも特徴として挙げられる。檜皮さんは、自らの障がいとそのキャリアの展開にどのような影響があるのかをあらためて考える時期にあった。持田さんは出産という女性アーティスト固有の転機とアーティストとしての活動の関係を考えざるをえなかった。そして、佐々木さんはガラス/工芸という領域と現代美術の交錯点を探り、さらに海外での展開という新たな試みという転回期でもあった。こうしたアーティストの転機の中で、MCAGPアクティベーションのプログラムのような支援が果たす役割は、大きかったのではないか。(中略)

このアクティベーションが展覧会や作品制作といった支援プログラムに「ありがち」な成果を求めなかったことが、結果的に豊かな成果をもたらしたのではないか。展覧会や作品制作をしなければならぬとなれば、アーティストとしてはこれまでの集大成、あるいは反復をある程度行わざるをえなく、新しい方向性を実験するということが難しい。メンタリングは双方向型の共同作業であり、あえて言えばお互いの共通言語を探したり、作ったりする作業だと感じた。メンタリング自体、まだまだ日本語としては馴染みがな

いが、特にアーティストのキャリア形成において有益な方法だと思う。その点では、メンタリングを担当したメンター同士が今後も意見を交換して、ノウハウを共有することが期待される。



メンタリングの様子(上: 佐々木 類/下: 檜皮一彦)

支援アーティストからの声(抜粋)

持田敦子

メンターからいただいた意見やアイデアはとても面白く、具体的でした。現場で作業をしている方との関わり方や、観客との関わり方など、実現するためにとても作業量が多いアイデアが大半で、正直なところ一人では手が回りきらず、今回は作品制作にあまり直接的に反映できませんでしたが、プロジェクトは今後も継続していくため、いただいた意見を実現させていきたいです。プログラム全般としては自由と責任のバランスが良く、限られた時間で自身のプロジェクトに集中できました。その最中、メンタリングがあったことでさまざまな不安に囚われず、自分一人でやっている中での初挑戦で暗中模索時にも、その葛藤を誰かが見てくれると思うことで前向きになりました。誰かが気にしていているという安心感がありがたいと思いました。(今回支援いただいた)プロジェクトは、展覧会で制作

しにくいことも再確認し、それをMCAGPでプロトタイプとして実践できたことに大きな価値を見出しています。プロジェクトは書類仕事が多いことも大変でしたが、その困難さも大きな学びとなりました。



三菱商事社員とのワークショップの様子

MCAGP EXCHANGE — 活動報告と交流会

1年目および2年目の活動報告を行う「MCAGP EXCHANGE」では、スカラシップ、ブレイクスルー、アクティベーションの支援アーティスト、メンター、三菱商事社員が参加し、活動のプロセスの紹介やプログラムを横断する交流を定期的に行いました。

2021年度

キックオフ

2021年9月15日(水) 18:00-19:30 オンライン

MCAGPの趣旨や目的を改めて共有し、各支援アーティストが今後の取り組みや抱負を発表、自己紹介を含めて交流を行いました。

スカラシップ交流会

2022年2月25日(金) 14:00-16:00 オンライン ゲスト：水田紗弥子

今後、奨学生がアーティストとして活動するためのアドバイスとして、ゲストにブレイクスルーのメンターを招いたレクチャーを実施しました。当日は、「作品を発表する多様な場：美術館、芸術祭、オルタナティブ・スペースなどの事例を通じて考える」というテーマで、これまで携わってきた地域芸術祭や企業、美術館などでの多様な展覧会をとりあげながら、調査研究やリサーチなど、企画までのプロセスについて話しました。

ブレイクスルー・アクティベーション中間活動報告

2022年2月25日(金) 18:00-19:40

三菱商事パークビルディング会議室 及びオンライン

各支援アーティストの表現や思考を紹介するとともに、ブレイクスルーは、1年目の制作プロセスの説明と、2年目に向けた活動内容を発表し、アクティベーションは、メンターと対談形式でトークを開催しました。内容は、期間限定で後日オンライン配信しました。

スカラシップ・ブレイクスルー・アクティベーション交流会

2022年2月25日(金) 19:50-20:40 オンライン

「キャリアの発展」や「海外での制作・リサーチについて」などテーマ別にグループで分かれ、奨学生とブレイクスルー・アクティベーションの支援アーティスト、メンターが相互に交流を行いました。

2022年度

スカラシップ・アクティベーション交流会

2022年12月19日(月) 14:00-16:00 三菱商事ビルディング会議室、オンライン

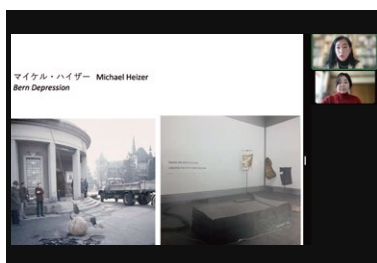
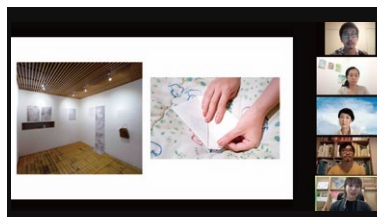
アクティベーション支援アーティストによるトークを実施し、自らの学生時代を振り返りながらアーティストとしての視点や将来像を共有しました。その後、スカラシップ奨学生同士で交流を深める時間を設けました。

スカラシップ・ブレイクスルー交流会

2023年2月18日(土) 13:00-18:30 代官山ヒルサイドフォーラム

(ブレイクスルー展覧会会場)

奨学生がブレイクスルーの支援アーティストによる展覧会を鑑賞して、アーティスト・トークを聴講した後に、ブレイクスルーの支援アーティストを交えて「リサーチ」や「制作」、「発表」とテーマを分けてそれぞれの経験を共有しました。先輩アーティストの話から、これからの勉強や活動について、ヒントを得る機会になりました。



参加者からの声

2022年度 スカラシップ

名古屋芸術大学在学

2022年 現代美術のアートアワード受賞

(交流会では)卒業後から現在に至るまでの活動を聞き、作家として自立するための方法や、どのような身の振り方ができるのかそれぞれのパターンを知ることができた。

2022年度 スカラシップ

京都芸術大学在学

一歩先を進むアーティストは作品のクオリティを重視するだけでなく、人との繋がりも大切にしていると感じた。奨学生にも他大学の教授へ自ら声をかけ繋がりを持つ人や、ブレイクスルーの方を見てもお互い感化され新しい取り組みへ繋げようとしていることがわかり、交流会へ参加することができて良かった。

三菱商事社内活動

三菱商事社員に対して、MCAGPへの理解促進と現代アートが社会へ与える影響について学ぶことを目的に、有識者を招いてのオンライントークを2回、ワークショップを1回実施しました。

トーク1「バンクシーを通して観る/問う/考える現代の社会」

2022年9月8日(木) 18:00-19:00 オンライン

MCAGPアクティベーションの選考委員であり『バンクシー —アート・テロリスト』(光文社)の著者でもある毛利嘉孝をゲストに迎えて、国際的アーティストのバンクシーによる作品を通じて、現代社会が抱える問題や課題について学び、またバンクシーの活動からアーティストの社会的役割とその存在意義についても考えました。

講師：毛利嘉孝 ファシリテーター：塩見有子



トーク2「新しいアートのかたち - NFTアートは何を変えらるか・変えないか」

2023年2月8日(木) 18:30-19:30 オンライン

NFT(アート)の基礎知識について学び、ブロックチェーン技術がアーティストの作品制作や発表にどのような変化をもたらすのか、最新のNFTアートの動向に触れ、またNFTがもたらす未来についても考えました。

講師：施井泰平 スタートバー株式会社 代表/現代美術家 ファシリテーター：塩見有子



東京国立近代美術館 鑑賞ワークショップ

2022年10月14日(金) 17:00-20:00 東京国立近代美術館

「観る・考える・話す・聴く」を繰り返し、対話しながら作品を鑑賞する対話型鑑賞を実施しました。それぞれ異なる他者の見方や価値意識を認識し、共同で知識を共有することで、新たな視点を体験的に学ぶとともに、美術作品の理解を深めました。

講師：大谷省吾 東京国立近代美術館 副館長 ファシリテーター：堀内奈穂子



作品を鑑賞する三菱商事社員



参加者と語る大谷省吾副館長とファシリテーターの堀内

参加者(社内)からの声

トーク1・「アートの想像力で常識を疑うこと」「都市は誰のもの?」と気になる言葉、常に考えていきたい言葉があった。

・グラフィティを通して、社会課題を訴えていく行為・活動には、気づきを得られる事を再確認した。

トーク2・新しいアートの世界に目を向けることができた。

・アートの歴史とNFTの関係性を説明していただき、「目の前の流行り」という狭い理解を超えて体系的に理解できた。

ワークショップ・普段は自分の好みに合わせて鑑賞しているが、今回のように指定された作品について意見を交わしながら鑑賞すると言うスタイルは初めてで、視野を広げる良い機会になった。

・他の参加者の感じ方にバラエティがあって興味深く、鑑賞の際に感じたままを大切にすることに改めて気づかされた。